安定したゆずれる経営の確立（自立できる後継者の確保）を目指して

西伯郡伯耆町[redacted]
合同会社長者原百姓　代表社員　志直 充年

１．はじめに

４年前にがんばる農家プラン事業で支援を受けたことで、経営面積は7.7haから25.9ha(H29)まで拡大することができました。

毎年のように４～５haの農地が増える現状の中、積極的に荒廃農地及び中山間地域の農地を受けてきましたが、今後のことを考えると、後継者のことが常に頭から離れず、法人化の必要性を感じていました。そのため、２～３年先にと考えていた法人化を思い切って今年９月に行いました。

法人化したことにより、１０月の初めには従業員１名を確保できました。人も集まりやすくなり、さらなる経営発展を目指していきたいと考えています。後継者については、従業員の中から決めたいと考えています。

そこで、不安定な経営では引き継げないので、法人の経営を更に発展させて安定した会社に育て、安心して経営を継承してもらえるようにしていきます。後継者が決まれば、早めにその後継者にバトンタッチをしていく考えです。

経営安定化に向けては、①規模拡大、②経営の多角化、③後継者育成を柱に取り組んでいきます。

２．経営の現状と課題

（１）労働力　常時雇用　３人　Ａさん [redacted] 女性　農業経験　１年６か月
　　Ｂさん　女性　農業経験　２年１０か月
　　Ｃさん　男性　農業経験　未経験
　　非常勤　１人　Ｄさん　女性　農業経験　４０年

（２）経営耕地面積
　　経営面積　2,588.6a　（水稲　2,495.6a、白ねぎ87.5a 、ハウス5.5a）

（３）主な所有機械施設

表１　所有機械・施設一覧

機械・施設名	性能・台数
トラクター	[redacted]
田植機	
コンバイン	
乾燥機	
農業用倉庫	
パイプハウス	

※全て志直充年から有償借受け

（４）課題と目標

① 水稲の規模拡大

〈課題〉

・現状の１台の田植機、１台のコンバインでは作業が十分に行えないため、水田面積が増えると田植えが遅くなり稲刈りも遅れ、適期を逃すと収量・品質に影響してくる。

・農地が点在しており、移動時間がかかり作業効率が悪くなっている。

・米の積み込みの作業が重労働であり、経営面積が増えることで従業員の負担がさらに大きくなると心配される。

〈目標〉

周辺農家の期待に応え、地域の受け皿として米子市を中心に農地を集積し、45ha は引受けられる体制を作りたい。

② 経営の多角化

〈課題〉

・雇用しているため常時仕事を与えることが必要であり、リスク分散、収益のアップのために白ねぎを導入しているが、面積拡大と作業の効率化が必要となってくる。

・今は、米が終わって片付けをしてからでないと白ねぎの調整作業ができない。そのため、水稲を増やすと白ねぎの作業が出来ず遅れてしまう恐れがある。

・米の乾燥場で白ねぎの調整作業をしているが、作業スペースが狭くて作業が非効率である。

・ビニールハウスの有効利用を含め、水稲、白ねぎの売り上げに上乗せするため、施設野菜の収益を上げていきたい。

〈目標〉

今、導入している白ねぎの規模拡大を行い、作業施設の整備による作業効率アップによる収益の増加を目指す。施設野菜は、技術習得と収益の増加を目指す。

③ 後継者育成

〈課題〉

・１０年間は自分も働こうと考えているが、５年以内で後継者を確保したい。そのためには、後継者の育成が急務である

・従業員は指示されたことだけをする傾向にあり、後継者に必要な状況に応じた管理や対応が出来ていない。

〈目標〉

経営管理ができる人材、栽培技術が十分に確立できる人材を育成する。

3．課題解決の具体的な取り組み

① 水稲の規模拡大

・担い手育成機構、農業委員、町などを通じて農地集積の声かけを行い、各地で情報を得ながら集積できる農地を確保する。また、高齢化で困っているような農家に対し営業活動を行う。

・農地中間管理事業を活用して、米子市の成実・五千石地区で集積し、平成 33 年度には表２のとおり 45ha まで規模を拡大していく。

・田植機、コンバイン、乾燥調整、籾摺機に関しては、高性能機械の導入により作業の効率化を図る。

・紙袋３０kg 入りに代わり、フレコン１ｔ詰を一部導入することで従業員の米の積み込み作業の軽労化を図る。

② 経営の多角化

・白ねぎは、専用の作業場の設置することで白ねぎの作業を早めることができ、表２のとおり平成 33 年度に徐々に 150ａまで作付けを拡大する。

・栽培技術については、ＪＡや普及所から指導を受け、単収向上を目指します。

・全量個選で、ＪＡ出荷を主体としていき高収益を目指します。

・ハウスを有効利用するため、高品質な軟弱野菜（春菊、インゲン）を表２のとおり増やす。今年度には、ハウス２棟を増設するので、さらに出荷量を増やし収益を上げ、経営の多角化を進める。

・ハウスの栽培管理は、パート採用の地元の人に任せるが、いずれは、野菜担当の従業員（正規雇用）を雇い入れたい。

表２　生産面積計画　　単位：a

品種・品目	Ｈ２９年（実績）	Ｈ３０年	Ｈ３１年	Ｈ３２年	Ｈ３３年
ひとめぼれ	971.4	1100	1,300	1,600	1,900
コシヒカリ	112.9	110	110	110	110
きぬむすめ	1,411.3	1500	1,800	2,100	2,500
小計　Ａ	2,496	2,710	3,210	3,810	4,510
秋冬ねぎ	72.5	75	85	105	135
春ねぎ	15	15	15	15	15
春菊（中葉）	2.5	10	10	10	10
つるなしインゲン	3	7	7	7	7
小計　Ｂ	93	107	117	137	167
経営面積計（Ａ+Ｂ）	2,589	2,817	3,327	3,947	4,677

④　後継者育成計画

・経営規模の拡大するためには労働力が必要のため、３年後には従業員をもう一人増やし、計４人にする。そのために、農業大学校、ハローワーク等で求人募集していく。

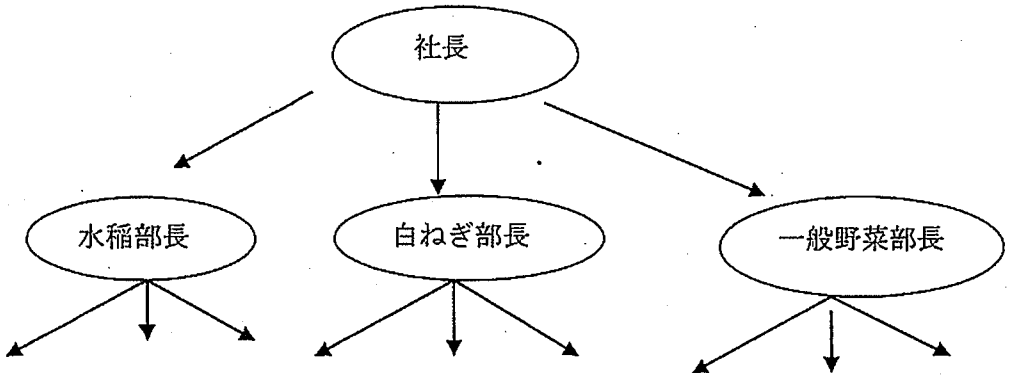
（人）

	29年	30年	31年	32年	33年
常時雇用(現状と計画)	3	3	3	4	4
非常勤(現状と計画)	1	1	1	1	1

・毎日、朝礼を行い、従業員の自主性を持たせる意味で、今後の２～３日の行動と今日の作業を聞くようにしている。そして従業員の意見を聞いて作業の指示をするようにしているが、今後は、外部研修（経営や簿記研修、栽培講習会等）への参加を促し、従業員教育に努める。

・資格取得や技術向上による手当て導入を行い、従業員の労働意欲を向上させる。

・今後は、下記のように従業員に各品目の責任者として携わっているもらい、責任感を育てていきたい。



4　がんばる農家プラン支援事業の内容

表３　支援事業内容

取組内容	事業費（千円）	H30 年度	H31 年度	H32 年度	支援体制
白ねぎ作業場の設置（150 ㎡）	8,735	◎			本人・県・町
コンバインの導入　５条	12,800		◎		本人・県・町
田植機の導入　７条	3,374		◎		本人・県・町
乾燥調製一式（乾燥機４５石２台、５インチ籾摺機等）	15,456			◎	本人・県・町
従業員の研修		○	○	○	本人・県
農地集積による規模拡大		○	○	○	本人・農委
合　計	40,365	8,735	16,174	15,456	

◎：がんばる農家プランにて実施　　○：本人が主体となって実施

５．事業効果

本プランを実施すると以下の事業効果が見込まれます。

（１）地域農業と農地を守る

・高齢化等で作付けできなくなった水田を引き受けることによって、農地の荒廃を防ぎます。

・法人内で後継者育成を行うことは、地域の担い手育成を図ることであり、また経営継承がスムーズに行うことができ、長く地域農業と農地を守ることができます。

（２）新規就農の受け皿

・法人に就農することで、独立自営就農よりも初期負担が少なく、農業経営に必要な知識や栽培技術の習得が可能になり、地域の担い手を増やすことができます。

（３）所得向上

・規模拡大や経営の多角化を図ることは経営発展や安定化に繋がり、所得が向上するとともに、「産業としての農業」のイメージ向上に繋がります。

6　添付資料

（1）収支計画

（2）年間作業計画